

『谷本学校 毒性質問箱 第11号』お詫びと訂正  
(2024年4月5日 現在)

「谷本学校 毒性質問箱 第11号(2008年12月発刊)」におきまして、以下の誤りがございました。

謹んでお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

『谷本学校 毒性質問箱 第11号 pp. 53-57』

〈特集2〉毒性試験の温故知新 イヌの毒性試験

1. 毒性試験になぜイヌを使用するか

古濱 和久

岩手大学 獣医学課程

p. 54 表1 イヌの生理、機能および形態学的特性

聴覚に関する記述において、

(誤)(…、ヒトは 200万 Hz)

(正)(…、ヒトは 20,000Hz)

項目・特性	関連した反応
生理機能 浅速呼吸 (パンチング) 唾液中アミラーゼ 嗅覚 聴覚 視覚 肥満細胞	汗腺 (エクリン腺) が未発達なため、体温調節のためパンチングを起こし易い。 欠損している (咀嚼せず食いこぼしが多い)。 ヒトの100万~1億倍高い (嗅細胞は約40倍多い)。 5万 Hz (ラットは8000 Hz、 <b>ヒトは200万 Hz</b> ) までの周波数を聞くことが可能。 脈絡膜に“タペタム”があり、光増幅器として働く。 皮膚に分布が多い。 <b>20,000 Hz が正しい</b>

安全性評価研究会 編集企画委員会

委員長 藤田 卓也